



季節を知ったら

暮らしが楽しくなった

〔第三十七号〕

夏至

六月二十一日



岳の開山の日

私たちの山への思いは、その呼び方にも表れています。標高五五五メートルの朝熊ヶ岳は、若い世代なら朝熊山、年配の方なら「岳さん」と呼ぶのではないのでしょうか。

朝熊ヶ岳が「岳さん」と呼ばれるのは、岳参りの習慣から。この地方では人が亡くなると朝熊山の奥の院に卒塔婆を建てるのが習わしで、伊勢は葬式後すぐ、志摩は一カ月後くらいに卒塔婆を上げ、六年間建立しておきます。卒塔婆は故人の仮の身体となり、そこに靈魂が宿るといふもので、靈魂は山へ帰るといふ信仰が強いこの地方では宗教や宗派を超えて建てられています。

毎年六月二十七、二十八、二十九日は朝熊山の開山忌。山頂近くに建つ金剛證寺の中興の祖、仏地禪師の命日にちなんだ法要です。伊勢市駅と鳥羽駅から臨時バスが運行されることからお参りの多さがわかります。

かつて二十八日には母親に連れられて山で一晩籠もったという話をしてくれた方は、開山忌とはいわず、「岳の開山の日」と呼んでいました。この日は伊勢や志摩一円から開山堂に集まり、持参の菓子や茶、特に鳥羽の相差の人がくれた魚の味ご飯のおにぎりや志摩の話が珍しかったそうです。そして畳の上でごろ寝をして、翌朝は日の出とともに山を下りるのです。

この方は今でも先祖に会いに岳の開山参りは欠かさないといます。登山道に沿って地藏が立ちますが、すでに亡くなった両親の顔によく似たものを探しては拝し、よだれかけをかけて登るのだそうです。

先祖に会いに山を登る、日本人の古い古い信仰です。「岳さん」と呼ぶとき、あなたも親に呼びかけているような懐かしみと敬愛がこめられていると思っただけでした。

文 千種清美